スクールワルドルに、チカはなる！

真西秋矢

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

千歌ちゃんが頑張るお話、第二弾です。

目　次

スクールワルドルに、チカはなる！　1

スクールワルドルに、チカはなる！

旅館、十千万。そこにある自室で、アイドル雑誌を読む少女の姿があった。
「ふむふむ……μ’ｓのにこちゃんには小悪魔な一面もあったんだ……」
キラキラな内容を読むその姿勢は、真剣そのもの。
「確かに、こんな可愛いのに小悪魔なセリフ言われたら、たまらないよね～」
そうしてちょっとだけ妄想をし、
「よし、決めた！　私も小悪魔を目指す！」
高海千歌は、拳を握り締めて宣言した。
「……で、小悪魔って何だろう？」
勢いだけは良かったものの、腕を下ろして首を傾げる。
「悪魔だから、悪いんだよね？　あ、でも〝小〟悪魔だから、そこまで悪くないって事なのか……。ちょいワルな感じ？　ちょいワル……ちょいワル……。う～ん……」
至極どうでもいい事を、知恵熱を出して悩む千歌。
「おはヨーソロー！」
そこへ、敬礼をしながら曜が入って来る。

「あー千歌ちゃんまたアイドル雑誌読んでる。朝から読んでたら、また遅刻しちゃうよ～」
「む～……」
「……千歌ちゃん？」
　脳内で試行錯誤を繰り返す千歌に、曜の声は聞こえない。
「入ってくる曜ちゃんを大声で驚かせる！」
「わっ……いきなりどうしたの？　てかそれ、本人の前で言っちゃう？」
　大声を上げた千歌に、曜は苦笑い。
「ん？」
　そこで初めて、千歌は後ろを振り返る。
「……。曜ちゃん!?？　いつからいたの!?？」
「あ、気付いてなかったんだ……。ついさっきだよー。私を驚かすとかどうとか言ってた時」
「もぉーいたなら言ってよ～！　いきなり失敗しちゃったじゃん！」
「えっと……何が？」
　当然曜には、千歌が何を企んでいるのかなんて分からない。
「実は……かくかくしかじかで」

「ふむふむ」
「……という事で、千歌はヤンキーを目指してみるのだ！」
　ドヤッ、と言い放った千歌に、
「また変なものに影響されちゃったのか……」
　曜は慣れたように小さく息を吐いた。
「バレちゃったからには、曜ちゃんにも協力してもらおう！」
「協力って……具体的に何をするの？」
「そこなんだよねぇ……。思い付きだから、これといって案があるワケでもなくて」
「あ、そこは自覚あるんだ……」
「む～……。学校に遅刻するとか！」
「いやそれ、先生に怒られるだけだし……。というか、現在進行形でそうなりそうなんだけど」
　曜は壁の時計をチラ見する。あと五分以内に出ないと、バスが行ってしまう。
「あえて歌詞を書かない！」
「それは梨子ちゃんが怖いよ……」
　千歌も状況を想像したのか、神妙に頷く。
「旅館の部屋を掃除しない！」

「それは後で、美渡さんに絞られるよ？」
「う、旅館の神様には、逆らえない……」
　アホ毛がヘニャり、これも断念。
「スイーツ食べまくってカロリー大量摂取！」
「ダイエットで泣いても知らないよ……」
「ダイヤさんのプリンを食べちゃう！」
「それは、絶対にやめた方がいいかな。うん」
「図書室の本を借りっぱなしにして放置！」
「図書委員の花丸ちゃんに迷惑かかるよ？」
「差し入れと称して、お菓子持って理事長室に邪魔しに行く！」
「鞠莉さんならむしろ、喜びそうだなぁ……」
「果南ちゃん家のボンベを勝手に使っちゃう！」
「普通に営業妨害だから、やめようね？　昔持ち出そうとして、ボンベ一本割ってこっぴどく怒られたよね？」
「ルビィちゃんにガ〇ガリ君のシチュー味をプレゼント！」
「多分泣き出すよ？」
　案を出す瞬間に却下され、

「もぉー何していいか分かんない！」
千歌は頭を抱えた。
「あはは……」
そろそろ諦めるだろうと、曜も特に止めたりはしない。
「あとは……あとは……」
千歌はしばらく唸った後、
「善子ちゃんの配信に乱入する！　新衣装持って！」
「いいね！　やろう！」
「へっ？」
まさかの賛同が返ってきて、千歌は変な声を上げる。
「えっと……曜ちゃん？」
「ちょうど一着だけ仕上げた衣装があったんだよね～。みんなの感想聞きたいし！　リトルデーモンさん達にも協力してもらおう！」
「そんなに乗り気になるとは……思わなかったなー？」
もはや戸惑う千歌。
「ほら千歌ちゃん！　早くしないと学校遅刻しちゃうよ！」
「あ、うん」

曜に連れられるまま、部屋を飛び出す。
「あ、そうそう千歌ちゃん」
「ん？」
「千歌ちゃんはそのままで充分可愛いんだから、キャラ作りとか必要ないよ」
「そ、そうかな……」
「ちょっとおバカな方が、千歌ちゃんらしいもん」
「こらー！　おバカってどういう事だー！」
「あ、千歌ちゃんが怒った～。逃げろ～」
「待てー！」

後日、
「はぁい、リトルデーモン達。会えて嬉し「お、やってるやってる」「お邪魔しまーす」い……は？」
「ねえねえ、新しい衣装作ってみたんだけど、どう思う？」
「可愛いよねぇ。キラキラだよねぇ～」
「ふむふむ……ホントに⁉？」

「良かったね曜ちゃん！　みんな可愛いって言ってるよ！」
「よーし、じゃあ次の衣装はこれでいこう！」
「けって～い！」
「早速、帰って衣装作り始めないと！」
「頑張ろ～！」
「「お邪魔しました～」」
「……」

「何しに来たのよ！」